

## 平成 21 年度 博士後期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化

学位の種類： 博士（保健科学）

保健科学研究科 博士後期課程 保健科学専攻ライフサイクル看護科学分野

学修番号 05957605

氏名： 小川 久貴子

（指導教員名： 志自岐 康子 ）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式1枚（A4版）に収めること

### I. 研究の背景と目的：

若年妊婦の産科的リスクを高める状況を明らかにするためには、社会経験の乏しさからもたらされる固有のストレス対処メカニズムを探索する必要がある。そのためには、本人の語りから対処方略パターンを文脈と共に丹念に紐解くアプローチが有効となる。そして、若年妊婦のネガティブな対処方略パターンがポジティブなパターンへと変化するターニングポイントを見出す事ができれば、看護介入において意義がある。本研究の目的は、若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化を抽出し、適切で有効な看護介入の開発への示唆を得ることであった。

### II. 研究方法：

質的記述研究デザインを用いた。研究参加への同意が得られた17～18歳の初産婦10名に、妊娠中の辛いイベントをライフラインで描写してもらった。それを基に半構造化面接を2回行った。録音データから逐語録を作成し、協力者4名以上が「とても辛い」と捉えたストレスフルライフイベントを抽出した。次に、イベントごとに対処した（又は、対処しなかった）データから対処コードを抽出し、さらに類似性でカテゴリー化をして対処方略パターンを得た。そして、ネガティブな方略パターンからポジティブなパターンへの変化を捉えた。

### III. 結果：

若年妊婦の内、妊娠を予期した人はストレスフルイベントに対し一貫してポジティブな対処方略パターンを取っていた。一方、望まぬ妊娠やパートナーと不安定な関係にある人は、妊娠経過に伴う対処方略パターンの変化がみられた。例えば、『月経停止による妊娠の懸念』のストレスフルイベントに、【妊娠を受け入れない】ネガティブな対処方略パターンから、〈胎児に愛着をもつ〉対処によって【妊娠に向き合う】対処方略パターンへ変化した。または、『実母への妊娠の告知』イベントでは、不仲な【実母に告げない】対処方略パターンから、〈間接的手段を用いて実母に告げる〉対処によって【実母との関係を強めようとする】ポジティブな対処方略パターンを取るように変化していた。

### IV. 考察：

本研究から、若年妊婦の新たなストレスフルライフイベントとして、対人関係の影響を受けやすい傾向を得た。また、対処方略パターンの変化のターニングポイントとして、胎児への愛着や頼りないパートナーの見切り、実母との関係性の修復を見出した。今後の看護の方向性として、ターニングポイントとなる確定診断時に、胎児への愛着促進と問題解決策を具体的に考える支援や実母を軸とした家族への意図的な関わりなどの示唆を得た。